

「神様の声を聞き分ける」

～あなたは聞き分けていますか？～

ヨハネ 10:1～19

私たちには神様の声が聞こえるはずですが、それと同時に、私たちの心をだめにしようとする言葉も聞こえてきます。きちんと聞き分けていますか？

「オオカミと 7 匹の子ヤギ」の話を知っているでしょうか。オオカミが子ヤギを食べようと家に入ります。オオカミはその時出かけたお母さんだと見せかけるために、手を白く塗って扉の隙間から見せたり、声を変えたりしてだまそうとします。初めのうちは警戒し、だまされなかった羊も、最後は騙され食べられてしまう・・・そんな話です。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門から入らないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です」(ヨハ 10:1) これは「門」でないところから入ってくるとあります。一体何でしょうか。そして入り口はどこでしょうか。いつのまにかそれは私たちの隣にあります。「囲いを乗り越えてくる」ということはそこが「壊れている」つまり「弱点」をついてきたのです。私たちはよい言葉と悪い言葉をわかったつもりで生きています。「光の御使いに私たちの人生に近づき、反逆し、ズレるようにしてきます。とても聞きやすい言葉で私たちの心を惑わすのです。しかし彼らの声は決断させる言葉ではありません。だから自問自答するようになります。

「オオカミと 7 匹の子ヤギ」の話でも、子ヤギは、オオカミと色々と会話をする中で、どんどんオオカミにヒントを与え、最後はオオカミを「お母さんだ」と思い、決断し扉を開けてしまいました。このやりとりはとても私たちの人生の決断に似ています。

またこんな話もあります。昔、飛行機にのっていた 8 人の乗組員が太平洋上に墜落しました。なんとか命は助かり助け合い、仲がよかった乗組員たちも、日を追うごとにその仲が壊れていきました。言い争いが始まってしまったのです。なぜそんなことが起こったのでしょうか。それは、それぞれが疲れてきて心の中で「なんでこんな目に・・・」と会話をしてしまったのです。そんな中、機長は「私に祈れ」という神の声を聞き、一人祈り始めました。その中で彼は「上を見よ」という言葉を聞きます。すると 1 匹のかもめが空にいて海に落ち、そのかもめのおかげで飢えをしのご、助かったのです。

悪いやつはいかにも「悪い」という風貌で獰猛な姿で近づいてくるわけではありません。彼らの目的は何なのでしょう。彼らはただ自分の目的(オオカミであれば子ヤギを食べたい)を果たしたいだけです。そんな奴が私たちの人生をずらそうと近づいているとしたらどうでしょうか。今、私たちの人生がずれていないか考える必要があります。「門から入る」のは私たちがズレないためです。「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。」(詩 100:4) 「門」から入ることが大切です。そして「門」とは「感謝する場所」ということです。だから

① あなたの来客はどこから来ましたか？

～神様は愛と賛美と祈りからくる～

あなたの思いのスタートはどこからですか？ 始めようとした志は何だったのでしょうか。「いつも喜んでいなさい。

絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」(1テサ 5:16～18) これをイエス様にあつて賛美に変えるのが礼拝です。誰に何のためにするのでしょうか。私たちの人生はちょっとずらされてしまうのです。もしズレてしまったらその先は「自分が神」になってしまいます。「自分が 1 番」とか「自分がだめなんだ」と自分で決めてしまうようになるのです。まるで神のようです。

世間では「神ってる(神対応)」なんて言葉もありますが、これは怖いことです。私たちは神ではありません。だから私たちが「イエス様のように生きようと願うこと」つまり「過去の

価値観で、自分で決めない」ということが大切になるのです。「芯を打つ」といいますが、大切なのは「中心」です。あなたの中心はなんですか？ 中心が定まっていなくてちょっとのことでズレて流されてしまいます。もし私たちが「自分は間違っていない」となっていれば要注意です。神様を知っている人は、何かがあったとき「間違っているかもしれない」と思うのです。「このみことばを聞いて、ユダヤ人たちの間にまた分裂が起こった。」(ヨハネ 10:19) 一つの言葉でもまっすぐに聞く人と曲がって聞く人がいました。だから分裂が起こったのです。あなたの客はどこから入ってきたのですか？ イエス様は賛美と祈りと感謝から入ってきます。愛や真理など変わらないものから入ってくるので私たちの思いが変わるはずはありません。だから私たちの思いがくつがえされるのであれば入り口が違うのです。入り口が違くと私たちの心に穴があきます。だからこそもう一度何かをする時に「誰のためなのか」を考えましょう。私たちがすべきなのは、相手からの見返りの答えを待つことではなく、ただ愛を伝えることです。

「わたしは門です。だれでも、わたしを通して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます」(ヨハネ 10:9) 人を見るとつまずきます。だから神様を見ましょう。神様を見ていけばすべてを知ることができます。

② 命がけの犠牲を見出す

私たちの人生は命がけの人生で始まっています。神様は必ず見つけてくれて命がけで向き合ってくれます。命がけの人がいるのですから、人を見てはいけません。人に目を向けると私たちは道を誤ります。しかしあなたの人生であなたにかかわる人は命がけなのです。そして教会はそういう場所でありたいのです。失敗します。だけどそうしたいと願い、そうあろうとすることが大切なのです。それが真理です。

口でよいことをいっても実際に行動しないというのは「偽善者」です。「失敗はする、だけどよくなるようにする」これが「善」です。最善を選ぼうとすることです。これは向き合うことでしかできません。だから判断できる神様に聞くのです。絶えず最善を選びましょう。そして神を見て隣の人を見ましょう。(ヨハネ 10:11～15)

③ キリストの命で生きる

～自 or 内なるキリスト～

人の評価や価値観はとてもズレています。そんな私たちが判断すると人を傷つけます。だから神様に聞きましょう。その判断基準は平安であるかどうかです。「【主】は私の羊飼いです。私は、乏しいことはありません。」「たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわがわがいを恐れませぬ。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。」(詩 23:1,4) ぜひイエス様と生きてください。むちや杖は私たちが誤らないためのものです。だから痛くはありません。「ノー」の時に神様を感じてください。そのとき神様が声をかけてくれます。

「あなたが右に行くにも左に行くにも、あなたの耳はうしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを聞く。」(イザヤ 30:21) 御言葉から聞きましょう！ そうすれば私たちの人生は必ず変えられていきます！

(要約者:岩崎 祥誉)

(2月4日)